

平成26年度 京の環境共生推進計画評価検討部会
会議録

日 時 平成27年1月28日(水) 午後2時～4時10分

場 所 京都市役所寺町第1会議室

出席者 小幡部会長, 池垣委員, 板倉委員, 大久保委員, 中川氏(奥原委員代理), 小山委員,
村瀬委員

欠席者 深尾委員

内容

1 開会

- ・環境企画部長 挨拶

2 議題

(1) 「京の環境共生推進計画」の進捗状況の点検・評価について

- ・事務局から「京の環境共生推進計画の進捗状況の点検・評価結果について」、資料1を用いて説明

(小幡部会長) 「京の環境共生推進計画」の昨年度, 1年間の進捗状況の点検・評価結果について報告していただいた。目標値を設定している環境指標については, 「◎」, 「○」, 「△」, 「×」で進捗度を分類している。この点検・評価結果について, 御質問, 御意見等をお伺いしたい。

(大久保委員) 新規取組のうち, 例えば, 長期的目標1「1 地球温暖化対策の推進, エ 自動車からの二酸化炭素排出削減対策の推進」の「京都未来交通イノベーション研究機構の設立」などは長期的にしか効果が出てこないと思われる。一方, 「ウ 新エネルギーの導入促進」の HEMS 助成などは効果が上がったのではないかとと思われるが, 効果が上がったものがあれば教えていただきたい。

(相部地球温暖化対策課長) HEMS は1件につき2万円を助成するものであるが, 今年度, 12月までに82件の実績があった。また, エネファーム(家庭用燃料電池システム)は439件である。

(大久保委員) 従来から取り組まれている住宅用太陽光発電システムなどと合わせると全体でどのぐらいの件数になるのか。

(相部課長) 太陽光発電システムは戸建てで837件, 蓄電システムが128件, 太陽熱利用システムが8件となっている。

(大久保委員) 「BEMS 普及コンソーシアム京都」は設立されたばかりであるが, オフィス系のエネルギー消費量は増えており, ICT活用などにより3~4割削減したという報告もある。事業者にとっては代金が減るというメリットもあるが, BEMS についてはどのような状況か。

(西尾環境総務課課長補佐) BEMS については, 病院・医療関連施設, ホテル・旅館, 大学など, 導入効果が高いと思われる業界でコンソーシアムを組むような形でやっている。ま

ずは普及啓発やいくつかの施設でモデル的に導入し、その効果等を検証して更なる導入につなげていくことを考えている。

(大久保委員) 反応はいかがか。

(相部課長) コンソーシアムでの取組として、BEMS を先行導入する際に必要となる費用の一部を助成する「京都市民生・業務部門民間施設 BEMS 先行導入支援補助金」を平成 26 年 10 月から設けており、予定件数 5 件のうち現在までに 3 件が採択されている。なるべくコストパフォーマンスの高そうなところを狙って助言させていただくようにしているが、接触できたところについては割と良い反応である。

「BEMS 普及コンソーシアム京都」は民生・業務部門をターゲットにしており、まずは成功事例を作り、それを展開できるような形に持って行きたいと考えている。

(板倉委員) P28 の市街地の緑被率は平成 18 年度以降測定されていないが、今後、測定される予定はあるのか。もし今後も測定されないのであれば、環境指標から削除した方が良いのではないか。

(西尾課長補佐) 今年度から 3 箇年かけて測定している。費用がかかることから毎年度測定できるものではないが、平成 27 年度が「京都市緑の基本計画」の実施計画である「京のみどり推進プラン」の見直し時期であることから、それに向けて中間的な現況把握は必要であると考えている。

(大久保委員) 他都市もおおよそ 10 年に 1 度ぐらいしか測定されていない。

(小山委員) 緑被率はどのように測定しているのか。また、費用はどれぐらいかかるものなのか。

(西尾課長補佐) 今回実施している調査の手法については把握していないが、これまでの調査では航空写真を用いて測定していた。また、正確な金額はわからないが、かなりの費用がかかる。

(板倉委員) 飛行機を飛ばして航空写真を撮らなくても良いのではないか。飛行機を飛ばして解像度の高い写真を撮るとかなりお金がかかる。他都市では衛星画像等を用いて把握されているところもある。

(小山委員) 販売されている衛星画像等を購入すれば、それほど手間がかからないのではないか。衛星画像のデータが入手できれば、学生に解析させることもできるのではないかと思った。

(小幡部会長) それはぜひ検討していただきたい。

(小山委員) P24 の「1 自然環境の保全」「ア 森林の保全と適正管理」のところで、ナラ枯れ被害についての記載がある。森林被害では、他にシカなどによる獣害もあると思うが、獣害は環境ではなく他の部署が所管しているのか。

(西尾課長補佐) ナラ枯れ対策としては、林業、あるいは景観の部署が関わっている。3 年ぐらい前から調査しており、ナラ枯れの原因となるカシナガの捕獲なども行っている。現在は左京区鹿ヶ谷等で実施しており、順次、周囲の山まで広げていこうとしている。一方、シカについては、ナラ枯れ被害とは直接関係ないが、鳥獣被害対策として実施している。

(小幡部会長) 他の部署に取組状況等を聞いてもらい、シカなどによる獣害対策について記載することは可能か。

(西尾課長補佐) シカということであれば、イノシシやサルなども含めた生活被害対策、農林被害対策として行っていると思われるが、そのあたりの位置付けについては一度確認させていただく。

(大久保委員) データのせいではないが、取り組まれた施策・事業の効果が上がっているのかが分からない環境指標がある。こどもエコクラブの参加団体数・参加者や自然体験学習の場利用者数は減っているが、それは小学生の数が減少しているからなのか、子どものアクティビティが低下しているからなのか。P27の「要因・取組状況」にあるように、「本市小学生は減少傾向である」だけでは、施策・事業との関係が分からない。

P8の公共交通機関利用者数も「歩くまち・京都」関連の施策・事業の効果が出ているのか、円安等の影響で観光客が増え、母数が増えたせいなのか。京都市内をたくさんの方が移動している中で、どの程度公共交通機関にシフトしているのかが分かると良いのではないか。

(小幡部会長) 量的な分析だけでなく質的な分析もあれば、より分かりやすくなるのではないか。また、数が減っても質が上がっているようなケースもあると思うので、表現等について検討していただきたい。

(三宅環境企画部長) P27の「自然体験学習の場利用者数」は、小学生の数がどのように推移しているのかを踏まえて評価するよう検討させていただく。また、P8の「公共交通機関利用者数」についても、自動車分担率の指標を踏まえて評価するよう検討させていただく。

(西尾課長補佐) 計画策定時に設定した指標により、およそ10年間、毎年度の現況値を記載しているが、補足として、指標以外に参考となる数値等も併せて示すようにしている。しかし、まだ不十分な面もあるため、引き続き検討させていただきたい。

(大久保委員) P24の「1 自然環境の保全」「ウ 生物多様性の保全」では、「京都市生物多様性プラン」を踏まえて実施された新規取組について記載されているが、「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」について教えていただきたい。

(辻環境管理課長) 「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」は、京都の祭りや文化を支えてきた生きもの、例えば、祇園祭のチマキザサ、葵祭のフタバアオイ、こうした祭りや文化と関わりのある生きものの保全・再生のために活動している団体の取組を認定するものである。フジバカマやチマキザサを育てるのは非常に難しく、技術も必要になるため、技術支援のための専門家派遣も行っている。昨年9月にプロジェクトを創設し、5件認定させていただいている。

(大久保委員) どのような団体の活動が認定されているのか。

(辻課長) 京都水族館、KES環境機構、京都放送などである。京都水族館では、水族館内の京の里山ゾーンでチマキザサ、フタバアオイを育成している。KES環境機構では、KES審査登録事業所のネットワークを活用し、市内の18事業所でフタバアオイ、フジバカマを育成している。京都放送では、自社敷地内でフジバカマを成育している。

(大久保委員) 環境教育等促進法の2011年全面改定との関わりはあるのか。他都市では「協働取組」事業としての事例が出てきている。

(辻課長) 生物多様性プランは生物多様性基本法に基づき昨年3月に策定した計画であり、リーディング事業の1つとして「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」に取

- り組んでいる。
- (西尾課長補佐) 「京の生きもの・文化協働再生プロジェクト認定制度」は環境教育等促進法の「協働取組」とは特に関係はない。これまで、個別の事業の枠組みの中で事業を進めてきたことから、環境教育等促進法とは切り離して取組を推進している。
- (小幡部会長) 長期的目標ごとに「関連する主な施策・事業」について記載されているが、新規取組だけでも良いので、予算額を記載することは可能か。
- (西尾課長補佐) この表は事業ごとに整理しており、事業によっては複数の事業が含まれるものもあり、予算を記載できるものとできないものがある。
- (小幡部会長) 費用対効果を検討する際には、お金をいくら注ぎ込み、どのような効果があったかを把握する必要があるため、今すぐには言わないが、数年先にはそのようなこともできるよう検討していただきたい。
- (西尾課長補佐) 「政策評価制度」や「事務事業評価制度」での評価結果等を活用し、どこまで示せるか検討させていただきたい。
- (大久保委員) P36 の「みやこ学校エコマイレージ」では、環境に関する取組の実践・成果に応じて学校予算が配分されているが、配分された学校予算がどのように使われたか把握されているか。
- (西尾課長補佐) 配分された学校予算の使われ方までは調査できていない。金額は把握できると思うが、どのように活用されたかまでを把握できるかは分からない。
- (村瀬委員) 地球温暖化対策の「市民協働発電制度」や「太陽光発電屋根貸し制度」はどのぐらい進んでいるのか。
- (相部課長) 「市民協働発電制度」と「太陽光発電屋根貸し制度」の実績を合わせると 1 メガワットを超えており、徐々に増えてきている。
- (西尾課長補佐) 現在、「市民協働発電制度」の稼働施設数が 9 施設、「太陽光発電屋根貸し制度」の稼働施設数が 20 施設となっている。「太陽光発電屋根貸し制度」は「市民協働発電制度」より後からスタートしたものであるが、数は多くなっている。
- (村瀬委員) 「太陽光発電屋根貸し制度」にはどのような効果があるのか。
- (西尾課長補佐) 運営主体は、事業で得られた収益を活用し、環境学習会の開催など、地域に対して社会貢献活動を実施することとしている。
- (小幡部会長) すぐには言わないが、資料 1 の構成について、施策・事業の一覧と環境指標の現況値があるというだけでなく、施策・事業と効果がつながるような工夫ができないか検討していただきたい。
- (大久保委員) P31 に「ピーク時からのごみ半減」とあるが、ピーク時のごみ量はどこを見れば分かるのか。
- (三浦ごみ減量推進課廃棄物企画係長) P32 図 4.1 がごみ量の推移である。グラフは平成 17 年度からの推移となっており、ピーク時である平成 12 年度はグラフには記載されていない。平成 12 年度のピーク時が 82 万トンであり、ピーク時の半分は 41 万トンであるが、目標は 39 万トンに設定している。現在が 47.2 万トンで、中間目標となる平成 27 年度が 45 万トンであるため、中間目標達成までにあと 2.2 万トンの削減が必要である。
- (大久保委員) ピーク時のごみ量も記載してはいかがか。また、P35 の「3 課題及び今後の

方向性」の記載について、この記載内容だけでは具体的な取組が見えてこない。何か目玉になるような具体的施策は考えられているのか。

(三浦係長) 2R と分別の促進を柱とする条例の改正について検討している。分別については、市民、事業者の方々に資源ごみの分別に協力していただいているが、これを義務に引き上げる。2R については、小売事業者や外食事業者などに、利用者の食品ロス・食べ残しなどを可能な限り出さないような工夫をしていただくための啓発などに協力していただき、そうした取組について、年1回、報告していただくことなどを考えている。

(大久保委員) 後者は食品リサイクル法の裾だしということか。

(三浦係長) 食品リサイクル法の報告義務は、事業者自らが出すごみ量やリサイクル量を国に報告するものであるが、今回の条例改正案は、事業者と市民が関連する部分、例えば、市民が買い物をする際に、事業者から「レジ袋は必要ですか」と声を掛けていただき、事業者から市民に対してごみ減量につながるような働きかけを行ってもらうことなどの取組状況を本市に報告していただくものであり、報告内容が異なる。ただ、外食においては、市民の食べ残しが事業者のごみになってしまうため、食品リサイクル法の範疇にも入ってくるが、条例では事業者だけでなく、事業者・市民両方の側面から発生するごみを減らすことを考えている。

(西尾課長補佐) 外食であれば、食べ残しを減らすために小盛りメニューを提供していただくようなことも考えている。

(三浦係長) 啓発のためのグッズなどを置いていただき、できるだけ食べ切ってもらうためのPRを飲食店でしていただくなど、地道なところから取り組んでいただきたいと考えている。

(村瀬委員) 雑がみはあまりお金にならないので、雑がみを回収してくれない古紙回収業者がいる。雑がみは量が多いので、雑がみが減ればごみの量も減るはずである。

(三浦係長) 雑がみなどの回収については、京都市紙リサイクル事業協同組合と「雑がみ等の紙ごみの分別・リサイクルの徹底推進に関する協定」を締結しており、そのなかで雑がみを必ず回収するよう宣言していただいているが、協定を締結していない古紙回収業者については回収してくれていない可能性がある。なお、古紙回収業者による回収のほか、住民団体を単位としたコミュニティ回収では雑がみを必ず回収していただけるので、回収団体数の拡大と利用促進に取り組んでいるところである。

(池垣委員) P39 の「京都市政出前トーク 環境政策局所管テーマ出講件数・参加者数」が減少している。ピークは家庭ごみの有料指定袋制が導入された頃であったと思うが、同じ内容であると市民も興味がなくなってくるため、新しいテーマを増やしていただきたい。子どもの数は減っているが大人は増えているので、大人向けのテーマを考えても良いのではないか。

(三宅部長) 2R と分別の促進については、2月市会で御議論いただくことになるが、分別の義務化は大きなポイントになると思う。家庭ごみの有料指定袋制導入時に出前トークなどで説明させていただいたが、今回も同じような形で市民の皆様に直接説明させていただく機会を持たせていただきたい。また、昨年3月に「京都市生物多様性プラン」を策定し、出前トークのメニューに追加している。しかし、まだあまり声を掛けていただけていない

ので、PRしていきたい。

(2) 環境保全の取組に関する周知資料「環境共生と低炭素のまち・京都（平成 26 年度版）」案について

・事務局から「環境保全の取組に関する周知資料 環境共生と低炭素のまち・京都（平成 26 年度版）案について」、資料 2 を用いて説明

(小幡部会長) 次回の環境審議会までには冊子になっていると思うが、意見等があればお伺いしたい。

(大久保委員) 丁寧に作られていて分かりやすいと思う。「その他のトピックス」とあるが、「主」なものがあって、「それ以外」のように感じてしまう。「今後のごみ減量施策について」だけでも十分に通じるので、「その他のトピックス」の見出しは必要ないのではないか。

また、P6 は「私たちにできること」としてまとめられているが、他のページも同じような書き方にした方が良いのではないか。P5 の『「京・生きものミュージアム～京都市生物多様性総合情報サイト～」の開設』はポータルサイトができたのは分かるが、それを市民にどのように使ってほしいのかを伝えた方が良いのではないか。

(小幡部会長) 京都市が何をしたかということを書くのではなく、市民がそれをどう使うのか、市民にどう使ってほしいのかという視点から書くということである。

(板倉委員) 京都市生物多様性総合情報サイトを見れば、市内で様々な団体が自然観察会などをやっていることが分かるので、ぜひそのような書き方にしていきたい。

(西尾課長補佐) 「その他のトピックス」の表現も含め、検討させていただく。

(三宅部長) P2 の「今後のごみ減量施策について」については、2 月市会で議論していただく内容のため、条例可決以降のスケジュール等が現時点で決まっていないことから、冊子の発行時期によって表現を修正させていただくことを御了承いただきたい。条例改正については、別途、啓発用のパンフレットも作る予定である。

(小山委員) 前回の冊子は 5,000 部作成されたということであるが、どこで、どのように使われたのか把握されているか。また、誰が使うことを想定した冊子であるのかを明確にする必要がある。

(西尾課長補佐) 一般配布用の冊子として作成しており、主に区役所等の公共施設で配布している。また、環境関係のイベント時にも配布しており、この冊子を家に持ち帰って見ていただくことで、環境について考える 1 つのきっかけにしていきたい。

(小幡部会長) 資料 1 で御説明いただいた進捗状況の点検・評価結果が京都市のホームページに掲載されるため、更に詳しく知りたい人は京都市のホームページに誘導できれば良いのではないか。

(大久保委員) 冊子に付いているアンケートの回収はどのぐらいあったか。

(西尾課長補佐) 現在、14 通である。

(小幡部会長) 少ない。次回はもっと多く返してもらえるように工夫していきたい。

(大久保委員) P4 の「イクレイ・持続可能性を目指す自治体協議会との連携」と言われても市民にはなかなか響かないと思うので、「京都の先進的取組、国際発信」というような見出

して、京都発の先進的な取組を PR できるようにしてはどうか。また、同ページの「スマートシティ京都プロジェクト」の写真は良いと思うが、『「現代の先端技術」と「京町家の知恵・工夫」が融合した』というものがどのような先端技術であるのかについても分かると良いのではないか。

(西尾課長補佐) パンフレットでは詳しく紹介されている。まだスペースにも余裕があるので、工夫させていただく。

(池垣委員) 「詳細は、ホームページを御覧ください。」がある項目と、ない項目がある。

P2 の『環境行政の拠点窓口「エコまちステーション」』についても、エコまちステーションがどこにあるのか分からない人もいるため、問い合わせ先があると良いのではないか。

(小幡部会長) 京都市のホームページにエコまちステーションのページはあるのか。

(三浦係長) ホームページに一覧表があり、電話番号などが記載されている。

(西尾課長補佐) 京都市のホームページに誘導できるよう工夫させていただく。

3 閉会